



平成29年2月23日

各 位

会 社 名 株式会社ワンダーコーポレーション
代表者名 代表取締役社長 日下 孝明
(JASDAQ・コード番号: 3344)
問合せ先 取締役管理副部長 塚田 英雄
(TEL: 029-853-1313)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成28年4月7日に公表した業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 連結業績予想の修正について

平成29年2月期通期連結業績予想数値の修正（平成28年3月1日～平成29年2月28日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回予想 (A)	百万円 75,500	百万円 500	百万円 650	百万円 250	円 銭 47.70
今回修正 (B)	74,000	△400	△200	△400	△76.32
増減額 (B-A)	△1,500	△900	△850	△650	—
増 減 率	△2.0%	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成28年2月期)	78,462	△557	△452	△765	△146.11

2. 修正の理由

平成29年2月期の連結業績予想につきましては、経営不振が続いていた新星堂事業において音楽映像ソフト業界の市場傾向に基づく売上減少を見込んだ上での店舗人件費見直しや本社経費の削減、WonderG00事業における文具雑貨などの高粗利商材導入を主とする既存店改装による収益改善、WonderREX事業における新規出店等により、連結業績における営業利益の黒字化を目指しておりました。しかし、売上高におきましてはWonderREX事業において海外市況の落ち込みに伴うブランド貴金属販売の不振となったことや衣料品等の高粗利商材の売上高が天候不順等の影響により想定を下回る結果となりました。WonderG00事業においては、エンタメを楽しむお客様の環境がスマートフォンを中心とした配信コンテンツに変化したことやネット通販の隆盛により映像ソフト及びゲームソフトの販売不振、TSUTAYA事業の音楽映像ソフトのレンタル販売不振となったことが、最大の商戦期である第4四半期において特に顕著であったため、予想を下回る見通しとなりました。

一方で、経費面におきましては、冒頭の通り、新星堂事業の本部機能とWonderG00事業本部を統合し、本部人員の見直しによる本部人件費の抑制や、新星堂店舗の売上減少に応じた店舗人件費の抑制など販管費の削減に努めてまいりました。しかし、上記売上高減による売上総利益高の減少及び、WonderREX事業における新規出店・移転増床に伴う既存店からの在庫振替により、想定以上の

在庫不足による販売機会逸失によって既存店収益が低下いたしました。また、新規出店・移転増床による一時経費が増加となったことなどから、予想を下回る見通しとなりましたので、平成29年2月期の連結業績予想を修正するものであります。

期末配当予想に関しましては、従来予想から変更はございません。

(注)本業績予想については、現時点で入手可能な情報及び合理的と考える一定の前提に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、予想数値と大きく異なる可能性があります。

以 上